

消化器内科



診療科動画



診療科HP



1. スタッフ

診療科長(教授) 田中靖人
准教授1名、講師1名、診療講師1名、助教3名、特任助教9名、医員24名、大学院生8名

2. 診療科の特徴、診療内容

消化器内科では食道、胃、小腸、大腸、肛門、肝胆膵などのすべての消化器疾患を網羅し、臨床経験豊富な専門医が検査や診療を担当している。具体的には、拡大内視鏡、超音波内視鏡、カプセル内視鏡などの特殊内視鏡検査による精密診断、内視鏡的粘膜切除術(EMR)、内視鏡的粘膜下層剥離術(ESD)、内視鏡的乳頭括約筋切開術(EST)、内視鏡的乳頭バルーン拡張術(EPBD)、食道胃静脈瘤硬化療法・結紮術などの先進的な内視鏡的治療、原発性肝癌(以下、肝癌)に対するラジオ波焼灼術、肝動脈塞栓術、リザーバー動注化学療法や分子標的治療薬、免疫チェックポイント阻害剤による薬物療法、ウイルス性肝疾患に対する抗ウイルス療法、難治性消化器癌への抗がん剤治療、炎症性腸疾患への免疫抑制療法などに精力的に取り組んでいる。一方、新薬に対する治験にも積極的に参加し、多くの患者に案内している。このように消化器内科では、多岐にわたる消化器疾患に対して、最適で最先端の治療を受けることが可能である。

3. 診療体制

○外来診療体制

(月曜) 肝: 瀬戸山、吉丸、檜原
消化管: 直江、古田、山崎 胆膵: 吉成
(火曜) 肝: 飯尾 消化管: 具嶋、古田 胆膵: 岩崎
(水曜) 肝: 田中(靖)、飯尾 消化管: 宮本、脇
(木曜) 肝: 長岡、渡邊、稲田
消化管: 直江、具嶋、宮本 胆膵: 大塚
(金曜) 肝: 徳永、田中(健) 消化管: 松野、大野

○病棟診療体制

腹部超音波検査、内視鏡検査・治療、血管造影、肝生検、肝癌経皮的治療などの検査、治療を原則毎日行なっている。またチーム診療を行っており、下記のように症例検討会を開催している。

(月曜) 肝臓カンファレンス、3科合同カンファレンス(肝臓、消化管)
(火曜) 新患カンファレンス、回診
(木曜) 消化管カンファレンス
(金曜) 内視鏡カンファレンス

4. 診療実績

○疾患別の入院症例数(令和6年度)

肝細胞癌・肝癌 523 例、肝腫瘍 12 例、肝硬変 40 例、肝性脳症・腹水 10 例、肝炎 25 例(急性肝炎 4、B型慢性肝炎 2、C型慢性肝炎 1、非アルコール性 3、薬剤性 1)、肝障害 6 例、肝不全 5 例、自己免疫性肝炎 14 例、原発性胆汁性胆管炎 7 例、肝門部胆管癌 14 例、肝内胆管癌 23 例、胆管癌 13 例、総胆管結石 11 例、胆管炎 55 例、胆のう癌 5 例、膵癌 102 例(頭部 54、体部 31、尾部 14 含む)、膵炎 30 例(慢性膵炎 11、急性膵

炎 1 含む)、仮性膵のう胞 1 例、消化管出血 12 例、食道静脈瘤 43 例、食道癌 160 例(上部 7、中部 37、下部 21 含む)、噴門癌 3 例、食道胃吻合部癌 9 例、食道狭窄 5 例、胃癌 109 例(早期 29、体部 38、前庭部 24、底部 2 含む)、胃腺腫 2 例、出血性胃潰瘍 2 例、胃腸炎 3 例、十二指腸癌 12 例、十二指腸腫瘍 5 例、十二指腸腺腫 35 例、出血性十二指腸潰瘍 3 例、小腸潰瘍 1 例、盲腸癌 3 例、虫垂癌 2 例、大腸癌 60 例(上行結腸 13、横行結腸 16、下行結腸 3、S状結腸 16 含む)、大腸腫瘍 19 例、大腸腺腫 127 例、潰瘍性大腸炎 25 例、大腸憩室出血 7 例、クローン病 54 例、腸炎 5 例、イレウス 7 例、ポリープ 104 例(胃 7、大腸 96 含む)、直腸癌 19 例、直腸腺腫 2 例、直腸腫瘍 2 例、その他 227 例

○主要な疾患の治療実績(成績)

★切除不能肝細胞癌に対する薬物治療(一次および二次治療以降)として、現在までアテゾリズマブ+ベバシズマブ治療を 123 例、デュルバルマブ+トレメリムマブ治療を 19 例、ソラフェニブ治療を 331 例、レンバチニブ治療を 196 例、デュルバルマブ治療を 8 例に行っている。また、二次治療以降の薬物治療としてレゴラフェニブ治療を 38 例、ラムシルマブ治療を 24 例、カボザンチニブ治療を 16 例に行っている。さらに、肝動注リザーバーシステムを用いた肝動注化学療法(IFN-5FU、low dose FP)を 199 例に導入している。

★表在型消化管腫瘍に対しての ESD は、食道 101 件、胃 96 件、大腸 57 件に施行し、大きな偶発症もなく処置を行っている。また、他科と連携した治療も行っており、耳鼻咽喉科との合同手術である ELPS/ESD 48 例、消化器外科との合同手術である LECS は 23 例で十二指腸腫瘍に対する LECS も導入している。

★C型慢性肝疾患に対して、2014年12月よりインターフェロンフリーの抗ウイルス治療を導入しており、現在まで 562 例に投与し、最新の治療ではほぼ 100%近い SVR 率である。

○検査・治療の実績等

年間検査数

腹部超音波 3,354 例(内 造影超音波検査 37 件、肝硬度測定(SWE) 408 件、(Fibroscan) 678 件、上部消化管内視鏡 5,176 例、下部消化管内視鏡 2,342 例、胆・膵 EUS 236 例、EUS-FNA 133 例、ERCP 515 例、肝生検 29 例、肝腫瘍生検 34 例、ラジオ波焼灼治療 17 例、腹部血管造影 23 例、TACE 150 例、肝動注化学療法 16 例(シスプラチン単回動注 6 例、シスプラチン+5-FU 単回動注 10 例)、肝動注リザーバー留置 1 例、CVポート造設 65 例、カプセル内視鏡 75 例、小腸ダブルバルーン内視鏡 46 例、食道造影 99 例、胃造影検査 56 例、十二指腸造影 7 例、小腸造影 3 例、注腸造影 15 例

5. 臨床試験・治験の取組

★治験(令和5年度) 14 件

★多施設共同臨床研究

- 1) 呼気中アセトアルデヒド/エタノール濃度比と頭頸部・食道がん発症リスクの関連性に関する研究
- 2) 呼気中アセトアルデヒド/エタノール濃度比と NAFLD 線維化の関連性に関する研究

- 3) 切除不能肝内胆管癌の薬物療法に関する観察研究
- 4) 慢性肝疾患におけるバイオマーカーの探索およびその臨床的有用性についての検討
- 5) 家族性膵癌家系または遺伝性腫瘍症候群に対する早期膵癌発見を目指したサーベイランス方法の確立に関する試験
- 6) AI を用いた膵神経内分泌腫瘍の術後再発予測モデルの構築：多施設共同後方視的研究
- 7) 閉塞性黄疸を有する 1 型自己免疫性膵炎に対する胆管ステント非留置下ステロイド投与の安全性評価試験
- 8) 熊本県における切除不能肝細胞癌へのアテゾリズマブ・ベバシズマブ併用療法に関する観察研究
- 9) 切除不能肝細胞癌患者に対するアテゾリズマブ+ベバシズマブ併用療法の多施設共同前向き観察研究 (ELIXER 試験)
- 10) 眼科患者を対象とした C 型肝炎ウイルス (HCV) 潜在的キャリア拾い上げにおける有効性研究
- 11) 切除不能遠位胆道悪性閉塞を伴う膵癌に対する 10mm 径および 12mm 径金属ステントの無作為化比較第Ⅲ相試験
- 12) 不顕性肝性脳症に対するリファキシミンの有効性に関する研究
- 13) 切除不能肝細胞癌における血管新生関連因子、腫瘍免疫関連因子を検討する多機関共同観察研究 (PRISM-Bio Study)
- 14) 切除不能 Intermediate stage up-to-seven 基準外肝細胞癌におけるアテゾリズマブ+ベバシズマブ療法の有効性、安全性を検討する多施設共同第 II 相臨床研究 (REPLACEMENT study)
- 15) 肝硬変患者における不顕性肝性脳症に対する診断および治療効果の検討
- 16) 大腸憩室炎の多施設共同前向き観察研究
- 17) 炎症性腸疾患患者に合併する自己免疫性膵炎の実態調査
- 18) 重症アルコール性肝炎の予後規定因子に関する後ろ向き観察研究
- 19) 急性下部消化管出血患者のクリニカルアウトカムの実態とその関連因子の解明
- 20) HBV 既往感染歴を有する造血器腫瘍における、iTACT-HBcrAg モニタリングによる HBV 再活性化対策：多施設共同前向き観察研究

6. 地域医療への貢献

- ①熊本県がん検診従事者（機関）認定協議会肝がん部会（部会長：田中靖人）
- ②熊本県肝疾患診療連携拠点病院等連絡協議会（委員長：田中靖人）
- ③講演会開催
 - 2023 年度日本肝臓学会肝がん撲滅運動
 - ・医療従事者向け講座
県内 9 カ所で開催 参加者総数 140 名
 - ・市民公開講座
県内 6 カ所で開催 参加者総数 127 名
 - 肝臓病・消化器病教室
院内 2 回開催 参加者総数 18 名
出張型 2 回開催 参加者総数 166 名

- 熊本県肝疾患コーディネーター養成講座
年 1 回開催 参加者総数 104 名
- 熊本県肝疾患コーディネーター研修会
年 2 回開催 参加者総数 62 名

7. 医療人教育の取組

- 1) 卒後臨床教育の取り組み
初期研修では医師としての基本的な知識や技術の習得に加え、学会発表などの学術面でも支援を行っている。
- 2) 専門医取得のための支援
内科専門医：3 年間の後期研修は内科認定施設にて行い、認定取得のために必要な症例を経験させている。内科認定医取得後、日本消化器病学会、日本消化器内視鏡学会、日本肝臓学会、日本臨床腫瘍学会の認定施設をローテーションし、専門医資格を取得できるよう指導を行っている。
- 3) 地域医療人を対象とした卒後教育
医師会講演会や、消化器内科が主体となった
 - ①日本肝臓学会肝癌撲滅運動医療従事者講演会
 - ②熊大病院内視鏡セミナーなどを通して、消化器疾患、肝疾患の最新の情報を提供し、地域の医療レベルの向上に貢献している。

8. 研究活動

- 1) B 型創薬研究とその臨床応用：肝炎撲滅を目指して、B 型肝炎創薬研究及び最新のグローバル臨床治験を複数行っている。AMED（日本医療研究開発機構）・田中班（代表：田中靖人）として、全国多施設共同研究を展開している。「2022～2024 年 AMED 肝炎等克服実用化研究事業：実用化に向けた B 型肝炎新規治療薬の開発」
- 2) HCV に対する IFN free 治療の効果とその後の予後についての臨床研究：オミックス解析による SVR 後肝臓に関連する遺伝要因含む因子の同定や治療前後での血中エキソソーム等の解析による肝発癌予測バイオマーカーの同定。
- 3) ゲノムワイド関連解析 (GWAS) による免疫チェックポイント阻害剤の irAE 予測因子の同定
- 4) 肝臓免疫チェックポイント阻害薬の治療効果予測バイオマーカー探索・Microbiome 解析
- 5) 口腔内 AI 解析と食道がんリスク予測
- 6) HBV の再活性化メカニズムの解析・再活性化防止への取り組み
- 7) エクソソームに着目した胆膵癌の新規バイオマーカー探索
- 8) 肝硬変に伴う二次性サルコペニア患者におけるアルブミンの構造および機能多様性の検討
- 9) C 型肝炎ウイルス検査陽性者・脂肪肝に対する受診勧奨を目的とした病病（病診）連携システム構築及びその効果についての観察研究
- 10) 炎症性腸疾患における治療効果予測バイオマーカー探索
- 11) 低分子化合物誘導性ヒト肝前駆細胞を用いた疾患モデルの創出